
アンパン万

ペペロン夢次郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アンパン万

【Zコード】

Z2091F

【作者名】

ペペロン夢次郎

【あらすじ】

バタ子の恐ろしい野望はついに実現する……復讐に燃えるアンパンたち!しかしバタ子の操るアンパンマン号の前に敗れ、逃げ落ちていくのだつた……

第68話 「さよならアンパン万ー！」悲しき小麦粉の誇りーー。」

「アンパン万
アンツツツ！パンチツツ！－！」

「…………なにを…………つ…………バカ…………な…………！」

科学力はこの村の希望べべ。

「今はまた眠つてもうらがベベ。」

バイキン万
ターナー カレー パン!!?

前回までのアンパン万は……

バタ子の恐ろしい野望はついに実現する！！

ジャムおじいさんとの接触を試みるアンパン万だつたが
すでに動かぬ人となつていたのだつた……

復讐に燃えるアンパン万たち！

しかしバタ子の操るアンパンマン号の前に敗れ、逃げ落ちていくのだった……

アンパン万 「…………オマエを相手に数十年…………」

生きて帰れると思ったことはない…………」

アンパン万 「…………いつからか…………」

その才能に触れる日々を楽しむようになつていた…………」

バイキン万 「…………なにを今に…………！」

ショクパン万 「…………ドキンと仲良くな。」

バイキン万 「…………ショクパン！…………それはおまえこそが…………！」

ショクパン万 「…………知つてゐるぞ。…………いや、お前たちだつたな。」

バイキン万 「…………！」

カレーパン万 「…………この世界ユウイツのカッフルだべべ。」

親父のいない子にはさせないべべ。

バイキン万 「…………キサマー！？…………ビijoでそれを…………！」

バタ子 「 ビニへ逃げる!!

崩れパン^ノときがー!! なにができるー!!
アンパンマン号さえ手に入ればオマエ達
など敵ではない!!」

カレーパン万 「バター女がもう来るべべ。

待てない女だべべ。」

アンパン万 「三人同時にいこう。 時間稼ぎにはなるだろ
う。」

ショクパン万 「 時間稼ぎかよ。 笑 チンケな最期だな。」

バイキン万 「 まで!!オレに.....作戦がある!!

アンパン万 「 バンキンロボのエネルギー炉を利用して自爆する
気だらう。」

バイキン万 「 !?」

カレーパン万 「 その程度の熱と爆風では無駄べべ。

アンパンマン号の最強たる意味は
その装甲の強さべべ。」

バイキン万 「わかるまい!.....やらねば!!.....」

アンパン万 「 オマエはまだ生きる。」

決着を…… オマエに託す 」

アンパン万 「 カビルンリン！―― つれでいけ――！」

バイキン万 「 ……まで―― 子供たちはどうする……！」
「 ……ウサギやカバたちはどうするんだ……！」

バイキン万 「 ……やめろつ―― 離せつ――」
「 ……主の言うことと聞かないかつ――――」

アンパン万 「 主人を頼む。 カビルンリン。」

カレーパン万 「 身内の問題だべべ。 責任があるべべ。」

ショクパン万 「 ジやあ……またな―― バイバイキン！――笑 」

バイキン万 「 戻せ！―― そつちじゃない！――」

バタ子 「 木木木木……パンどもがそろつても無駄よ。」

アンパン万 「 思い上がるな!! いちバイトの分際が!! !!」

カレー・パン万 「 万年アシスタントがよく言つべべ。」

ショクパン万 「 ようーそろそろ犬の散歩の時間だろ? 笑 」

バタ子 「 黙れ!! 何も聞こえぬわ! 」

これからこの支配者はこの全能なるバタ女王
よ。

力こそ絶対……今はわたしの手にある!!
……もうよい。ジャムのところまで送つ
てやる!! ……」

アンパン万 「 ……いい人だった。」

小麦粉と小豆だったオレに光てくれた人だ
つた……」

カレー・パン万 「 パンの世界にカレーなんて物好きな年寄りだべ
べ……」

ショクパン万 「 何度言つても女みたいに白くしてくれやがつて
よお……」

アンパン万 「 オマエだけは許すわけにはいかない。」

「ジャム・ブリーフの話つ……。」

- - - - - ! ! ! ! !

バタ子
「
……哀れなパンね
」

アンパン万ここに散る！――！

次回へつづく。

第72話 「最終決戦！！ 嘘と実ーー！」

バイキン万 「 目標はパン工場のメインコンピュータ。
そしてアンパンマン号の2点だ。」

皆生れて歸るべし

行動開始！！！」

前回までのアンパン万は……

パン工場のメインコンピュータへのハッキングに成功し
アンパンマン号の設計図を手に入れる！！！

しかしそのメインコンピューターそのものがバタ子によつて仕組まれた偽物だつた！！！

罠に落ちるバイキン万万！

勝利を確信するガビルソンたちの勢いのままに

一斉攻撃は開始される！

ホラー万
「ひるむな！！
押しすすめ！！！」

チーズ（通信）「こちらチーズ。」

予測通り、パン工場の襲撃が始まった。

敵将はホラー万だ。

「迎えうつ！」

バタ子（通信）「 その部隊」こそ主力部隊よ。

恐ろく、そのホーリ万はノイキン万が変装してしるれ
ほほ予定通

「 バイキン万 「 ホラホラ～！！ 一点突破だり！！。 ハヒフヘフ

バタ子「久し振りね。バイキン万。
すいぶんと痩せたようだけれども」

「バキン万歳！」
今日でお前はおしまいだりーー。ハヒフヘフー

「どうかしらね……」

バイキン万「 知ってるだり！ まわり込むだり！！」

後方が排気口になつてゐるだり！――！

「万キントー、まさらせるだり――――――」

カビルンリン（バイキン万隊）「突っ込めー！！！！！」

バタ子「さあ……どうなるかしり」

! ! ! ! !

「な!? なんでだり!? ピンピンしてるだり

— 1 —

バタ子「後ろは排出する熱の出口……」
何秒生きていられるかしらね。
「

カビルンリン（バイキン万隊） 「 ああああ熱いつ！！！助けて
え！！！」

バイキン万 「 あああ！！！ カビルンリン！！！ 今助けるだり
！！」

バタ子 「 ホ！！！ 自ら死地に行くなんて！！！
そうして生きたまま焼かれて死ぬがいいわ！」

バイキン万 「 あああ！！！ 熱いだり！！！
変装が燃えてしまうだり！！！」

バタ子 「 今よ。全力後進！！！

そのまま壁に叩きつけてやりなさい！！！！！」

操縦士 「 はつ！！！」

「

バイキン万 「 ぐへえっ！！！！！！！！！」

ホラー万 「もうすぐだ！！！ あと少しでパン工場だ！！！」

カビルンリン（ホラー万隊） 「ま、また新手のバタ子の援軍が……」

ホラー万 「きりが無い…………！」

まるで読まれているかのようだ…………！」

チーヴ 「マヌケめ！！」

ここにはお田淵てのメインコンピュータはないぞ…………」

チーヴ 「笑えるぞ！！ 残念だつたな！！」

他の部隊は排熱口に突っ込んで全滅だそうだ…………
どうするホラー万…………いやバイキン万…………！」

「……クス 笑」

バイキン万 「 ままだり…………… !
いいかせないだり…………… !

チーヴ 「 ! ! ! ? ? ?」

ホラー万 （?） 「 マヌケはアナタでしょ。 ワ・ン・ちゃん

「

チーヴ 「 ?」

！」

バタ子「…………どうして…………」ハハハハハもは往生際が悪いのかしら。
アンパン万といい、ジャムといい……
何になる…………？」

バイキンマンことホラー万さん…………？」

バイキン万（ホラー万）「…………ふへへへへ…………ハヒフヘフー！」

バタ子「…………フンフ…………狂人め！…………いまいましい！…………」

チーヴ（通信）「やられた!!!!!!!!!!!!!!
こっちのホラーウンはドキン・チエングだ!!!!!!!!!!
バイキン野郎はどこにいる…………!!!!!!」

！？！？！？！？！

バイキン万（ホラー万）「ふへへへへ……アホウはお前だり……」

「！」

ハヒフヘフ！――！」

バタ子「まさか！？ 本拠地が知れた！――！？？ そんな馬鹿な！――！？」

バタ子「戻れっ！――！――！――！――！――！――！」

操縦士「ね、熱排出が―― スムーズにできません――スピードがあげられません――！」

バタ子「――！――！――！」

バタ子「排熱口の突撃はそれが狙いかつつ――！――！」

カビルンリン（本部隊） 「…………つまくいっているようですね」

バイキン万（本物） 「…………そのようだ……」

カビルンリン（本部隊） 「…………でもビリして殿は…………にメインがあることがわかったのですか？」

バイキン万（本物） 「…………できすぎていたのだ。うまくいきすぎている。トライアップである」とはすぐにわかつた「」

バイキン万（本物） 「…………ただあの偽ファイルが作成された場所だ……あれだけのモノを仕組める設備と技術は偽れない。つまり本物のメインコンピューターこそはそこにある」と……

「」

カビルンリン（本部隊） 「…………恐れいりました……さすがは殿……！」

バイキン万（本物） 「…………そしてバタ子は自分の策に落ちたのだ。自分の仕掛けた罠にはかかりやすいもの……お前も覚えておくがいい。」

カビルンリン（本部隊） 「はいっ！！」

カビルンリン（本部隊） 「（！！！）この人には……敵わない

二

バイキン万（本物） 「 まあ 爆破するぜ。」

バイキン万（本物）
全軍撤退だ！！！！！！

ドキン 「もう充分！ さあみんな撤退よーー。」

ホラー万「ふへへに逃げるだり！！撤退！！」

決着を告げる爆発音が響きわたる

！－！－！

次回！－！　いよいよ最終回！－！－！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2091f/>

アンパン万

2010年10月14日13時47分発行